

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 12 日 (2019.12.12)

【公表番号】特表 2018-535175 (P2018-535175A)

【公表日】平成 30 年 11 月 29 日 (2018.11.29)

【年通号数】公開・登録公報 2018-046

【出願番号】特願 2018-517364 (P2018-517364)

【国際特許分類】

C 0 3 C 17/28 (2006.01)

C 0 3 C 17/25 (2006.01)

B 3 2 B 1/02 (2006.01)

B 3 2 B 17/10 (2006.01)

B 3 2 B 27/34 (2006.01)

B 6 5 D 23/08 (2006.01)

B 6 5 D 23/02 (2006.01)

【 F I 】

C 0 3 C 17/28 A

C 0 3 C 17/25 A

B 3 2 B 1/02

B 3 2 B 17/10

B 3 2 B 27/34

B 6 5 D 23/08 A

B 6 5 D 23/02 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 28 日 (2019.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラス容器の外表面である第 1 の表面と、該第 1 の表面とは反対側の第 2 の表面とを含むガラス容器、及び

前記ガラス容器の前記第 1 の表面の少なくとも一部分に位置付けられたコーティングを含む、薬剤用パッケージであって、前記コーティングが、

1 つ以上のポリイミド組成物、及び

1 つ以上の金属酸化物組成物

を含み、

前記 1 つ以上のポリイミド組成物と前記 1 つ以上の金属酸化物組成物とが、前記コーティングに混合されており、

前記 1 つ以上の金属酸化物組成物の前記 1 つ以上のポリイミド組成物に対する重量比が、約 20 / 80 ~ 約 95 / 5 である、

薬剤用パッケージ。

【請求項 2】

前記コーティングにおける前記 1 つ以上の金属酸化物組成物の総量が、約 20 質量% ~ 約 95 質量%であることを特徴とする、請求項 1 に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 3】

前記コーティングにおける前記 1 つ以上のポリイミド組成物の総量が、約 5 質量% ~ 約 80 質量%であることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 4】

前記コーティングにおけるポリイミドと金属酸化物との組合せが、前記コーティングの少なくとも約 50 質量%を構成することを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 5】

前記 1 つ以上の金属酸化物組成物のうちの少なくとも 1 つが、ジルコニア、アルミナ、又はチタニアであることを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 6】

前記コーティングが、100 nm 以下の厚さを有することを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 7】

前記 1 つ以上のポリイミド組成物がフッ素化されていることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 8】

前記コーティングを有する前記ガラス容器の前記第 1 の表面の前記一部分が、約 0.7 以下の摩擦係数を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の薬剤用パッケージ。

【請求項 9】

前記コーティングを有する前記ガラス容器の前記第 1 の表面の前記一部分が、少なくとも約 250 の温度で 30 分間の加熱処理の後に、約 0.7 以下の摩擦係数を保持することを特徴とする、請求項 8 に記載の薬剤用パッケージ。